

【東京大学 先端ビジネスロープログラム講演会向け】

# Ⅲ.ソフトバンクの知財戦略と フロンティアテクノロジー活用への取組み

2022年10月13日（木）

ソフトバンク株式会社

コーポレート統括 法務・リスク管理本部 知的財産部

佐保 優一

※本資料及び本資料に掲載される文章、写真、商標、ロゴマーク、その他の著作物に関する著作権は、  
当社または原作者に帰属します。



## Ⅲ. ソフトバンクの知財戦略とフロンティアテクノロジー活用への取り組み

### 1. ソフトバンク知財戦略とコーポレートガバナンスコード対応

- (1) 事業競争力強化に向けた知財機能の在り方
- (2) まとめ

### 2. xR、メタバース、NFT活用への取り組み

- (1) 想定しうる知的財産法観点での課題
- (2) xR・メタバース時代におけるソフトバンク知的財産部門の方向性
- (3) まとめ

## Ⅲ.ソフトバンクの知財戦略とフロンティアテクノロジー活用への取り組み

### 1. ソフトバンク知財戦略とコーポレートガバナンスコード対応

- (1) 事業競争力強化に向けた知財機能の在り方
- (2) まとめ

### 2. xR、メタバース、NFT活用への取り組み

- (1) 想定しうる知的財産法観点での課題
- (2) xR・メタバース時代におけるソフトバンク知的財産部門の方向性
- (3) まとめ

イノベーション・DX  
の促進

法令順守  
の徹底

グローバルビジネス  
への対応



企業内の知財機能

戦略知財

予防知財

臨床知財

## 知的財産戦略の立案

縦（経営層）・横（関連部署）との連携

ルールメイキングへ向けた意見発信

DX推進・業務効率化、人材育成施策など

出願  
権利  
維持

知財  
契約  
対応

FTO  
調査

不正  
行為  
監視

社内  
啓発  
活動

子会  
社  
支援

侵害  
紛争  
対応

水際  
対策

## 知的財産戦略の立案

縦（経営層）・横（関連部署）との連携

ルールメイキングへ向けた意見発信

DX推進・業務効率化、人材育成施策など

出願  
権利  
維持

知財  
契約  
対応

FTO  
調査  
**予防知財**

不正  
監視

社内  
啓発  
活動

子会  
社  
支援

侵害  
紛争  
対応

水際  
対策

## 知的財産戦略の立案

縦（経営層）・横（関連部署）との連携

ルールメイキングへ向けた意見発信

DX推進・業務効率化、人材育成施策など

出願  
権利  
維持

知財  
契約  
対応

FTO  
調査  
**予防知財**

不正  
監視

社内  
啓発  
活動

子会  
社  
支援

侵害  
紛争  
対応

**臨床  
知財**

際  
策

## 知的財産戦略の立案

縦（経営層）・横（関連部署）との連携

# 戦略知財の重要性増加

DX推進・業務効率化、人材育成施策など

出願  
権利  
維持

知財  
契約  
対応

FTO  
調査  
**予防知財**

不正  
監視

社内  
啓発  
活動

子会  
社  
支援

侵害  
紛争  
対応

**臨床  
知財**

際  
策



## 第3章 適切な情報開示と透明性の確保

【原則 3 - 1. 情報開示の充実】

補充原則

3 - 1 ③ 上場会社は、経営戦略の開示に当たって、自社のサステナビリティについての取組みを適切に開示すべきである。また、**人的資本や知的財産への投資等についても、自社の経営戦略・経営課題との整合性を意識しつつ、分かつく具体的に情報を開示・提供すべきである。**

【原則 4 - 2. 取締役会の役割・責務（2）】

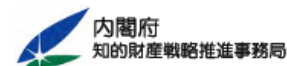
補充原則

4 - 2 ① 取締役会は、中長期的な企業価値の向上の観点から、自社のテナビリティを巡る取組みについて基本的な方針を策定すべきである。

また、**人的資本・知的財産への投資等の重要性に鑑み、これらをはじめと経営資源の配分や、事業ポートフォリオに関する戦略の実行が、企業の持続的な成長に資するよう、実効的に監督を行うべきである。**

令和3年6月11日に東京証券取引所公表した改訂コーポレートガバナンス

## 「知財・無形資産ガバナンスガイドライン」の全体像



現状

- 競争力の源泉としての知財・無形資産の重要性の高まり（←デジタル化の進展、グリーン社会実現の要請）
- 日本企業は、知財・無形資産の投資・活用において、海外先進企業に後れ

知財・無形資産の投資・活用の促進により、  
企業価値の向上、更なる投資資金の獲得

- 企業の知財・無形資産の投資・活用**戦略の開示・ガバナンスを強化**
- 投資家・金融機関が企業の知財・無形資産の投資・活用戦略を適切に評価し、**必要な資金を供給する資本・金融市場の機能強化**

コーポレートガバナンス・コードの改訂  
(2021年6月)により、**知財投資戦略の開示、取締役会による監督を明記**

→上場企業は実態(comply)が説明(explain)が求められる

知財・無形資産の投資・活用戦略の開示・ガバナンスの在り方を分かりやすく示す

※「**知財・無形資産**」の範囲は、特許権、商標権、意匠権、著作権といった知財権に限られず、技術、ブランド、デザイン、コンテンツ、データ、ノウハウ、顧客ネットワーク、信頼・レピュテーション、バリューチェーン、サプライチェーン、これらを生み出す組織能力・プロセスなど幅広い。

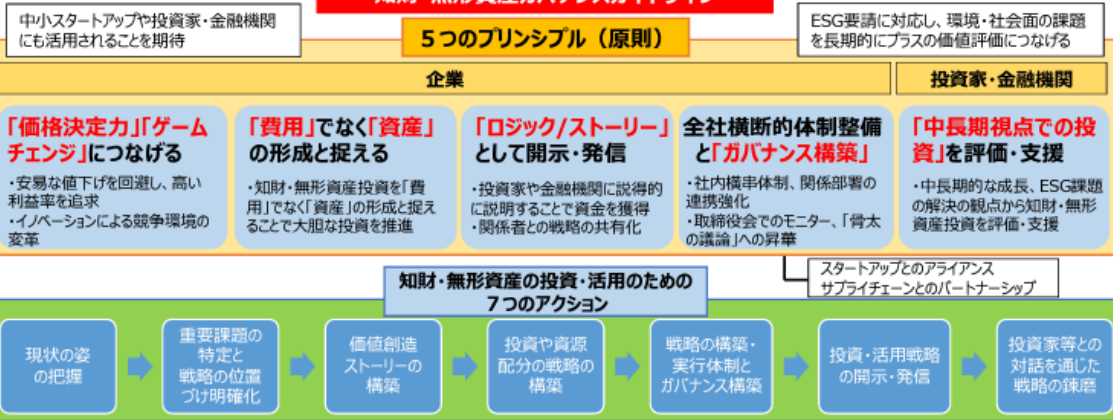
価値協創ガイダンス

価値創造ストーリーのフレームワークを参照

統合報告書、IR資料

既存の様々な媒体を使って開示・発信

### 知財・無形資産ガバナンスガイドライン



## ◆ 改訂コーポレートガバナンス・コード

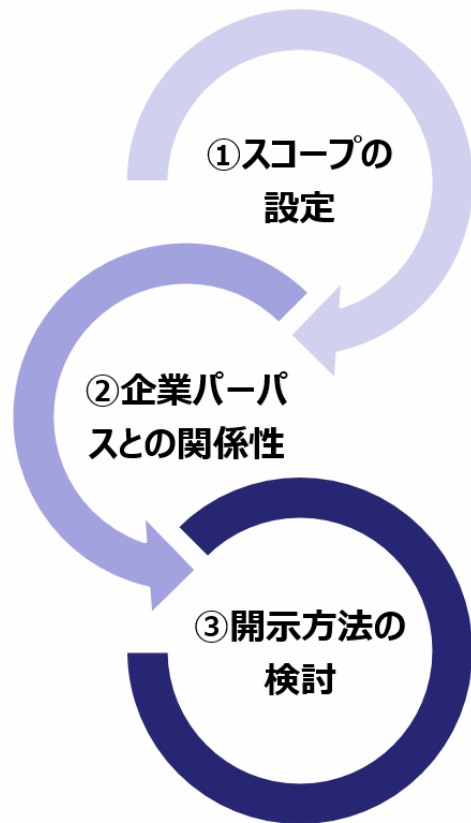
(2021/6/11公表)

## ◆ 知財・無形資産ガバナンスガイドライン

(2022/1/28策定)

知財・無形資産ガバナンスガイドライン（概要）より引用抜粋

[https://www.kantei.go.jp/jp/singi/titeki2/tyousa\\_kai/tousi\\_kentokai/governance\\_guideline/pdf/shiryo2.pdf](https://www.kantei.go.jp/jp/singi/titeki2/tyousa_kai/tousi_kentokai/governance_guideline/pdf/shiryo2.pdf)



## ① スコープの設定

・「持続的な競争力を確保するため知財・無形資産」の再定義  
※従来の知的財産権に限られず、技術、ブランド、デザイン、**コンテンツ**、**データ**、ノウハウ、**顧客ネットワーク**、**信頼・レピュテーション**、**バリューチェーン**、**サプライチェーン**、これらを生み出す組織能力・プロセス等から選定

## ② 企業パーパスと知的財産戦略の関係性検討

・企業価値向上に向けた、当社のSDGs重要課題との関係性の明確化（ストーリー化）

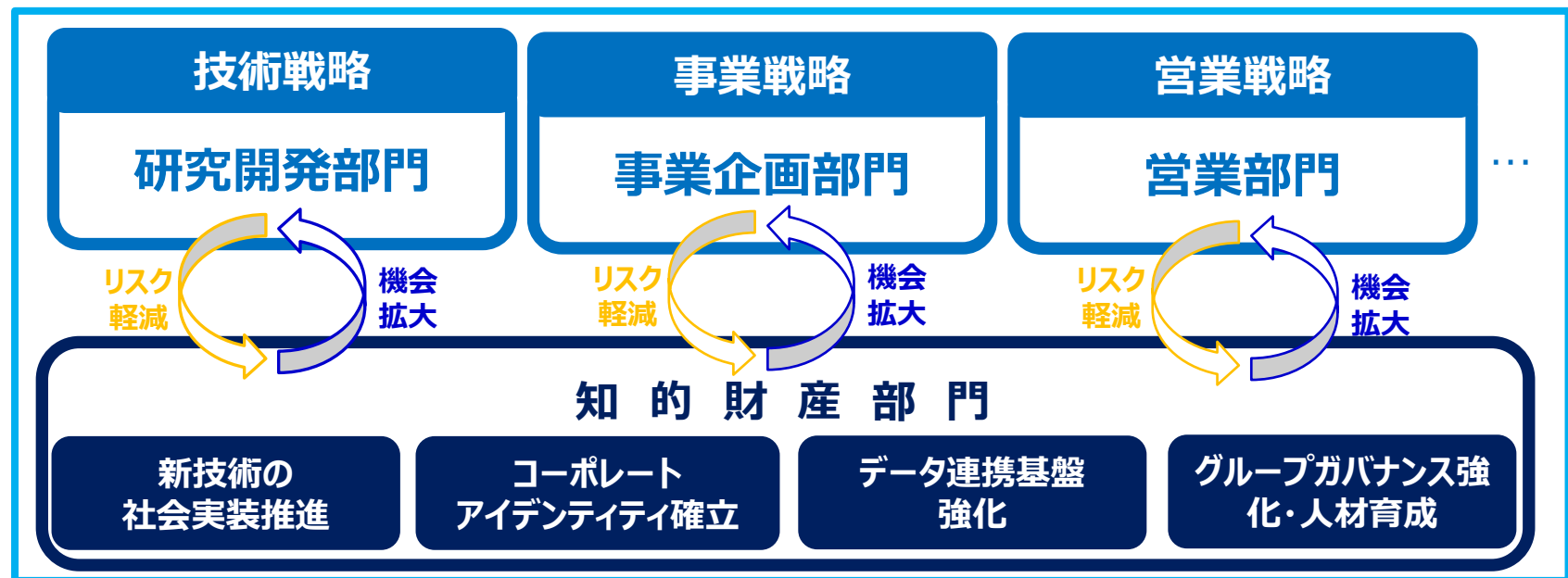
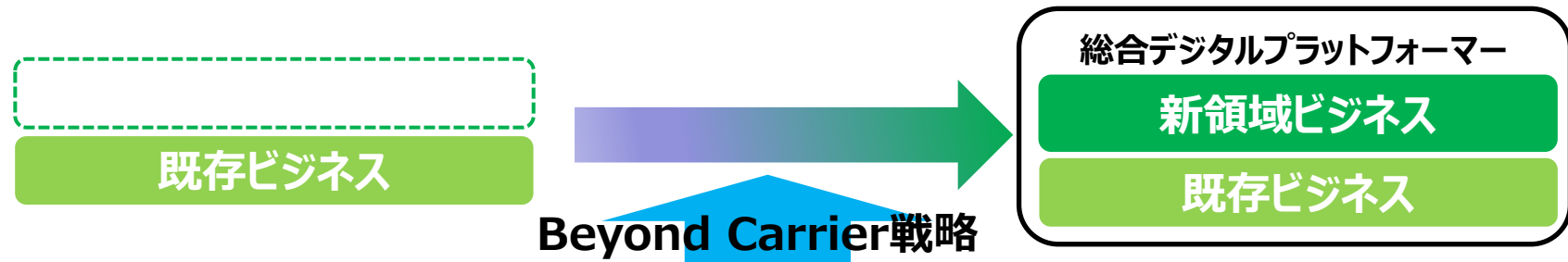
## ③ 開示方法の検討・ガバナンス体制構築

・ステークホルダーに伝わる知財戦略の開示内容検討  
・ガイドラインを参考に、社外開示に向けた「縦横」社内連携



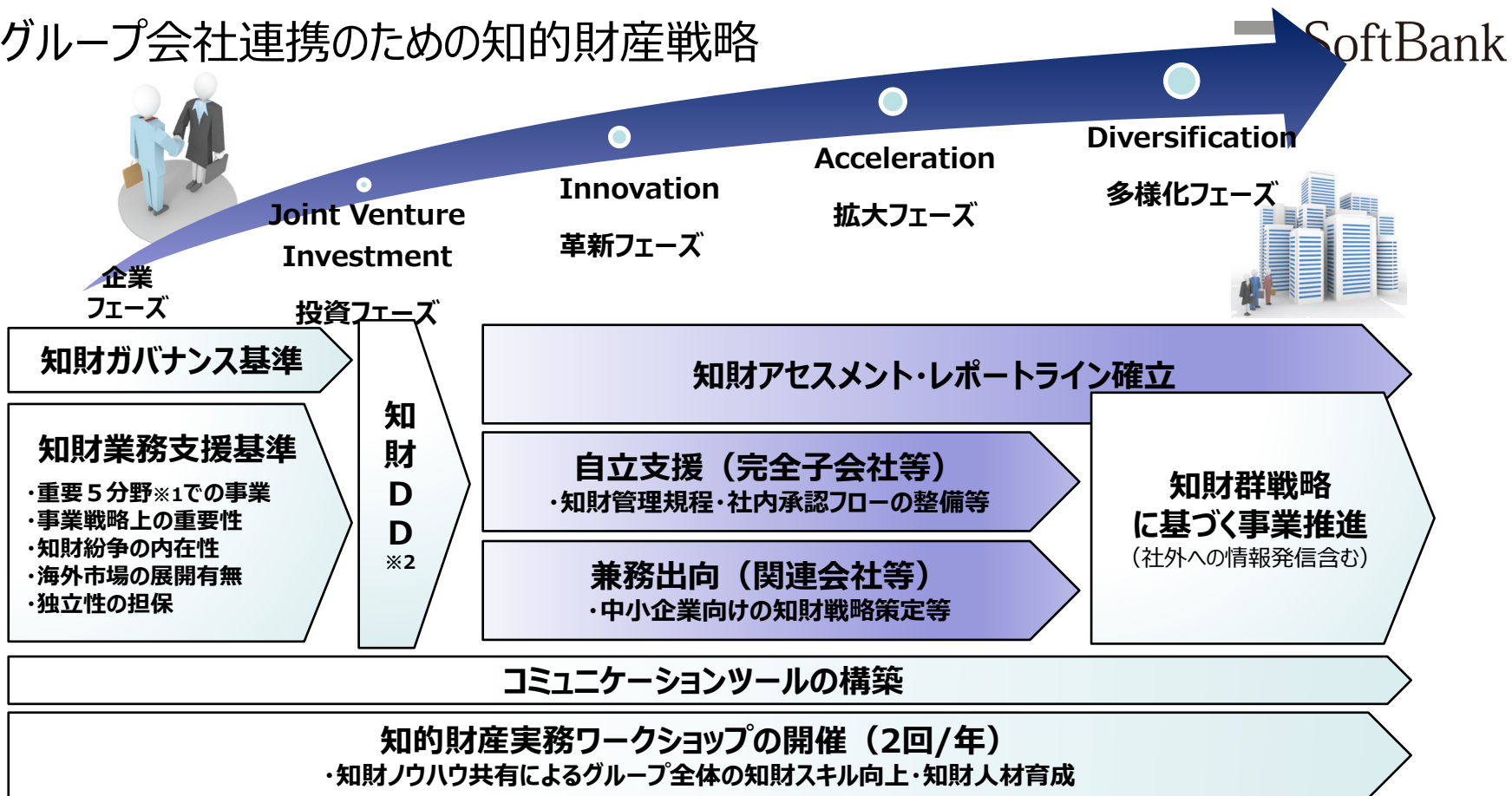
ソフトバンクサステナビリティサイトより引用抜粋  
<https://www.softbank.jp/corp/sustainability/materiality/>

「③オープンイノベーションによる新規ビジネスの創出」、「⑥レジリエントな経営基盤の発展」を軸に、知的財産戦略の「ストーリー化&視覚化」を検討



# グループ会社連携のための知的財産戦略

SoftBank



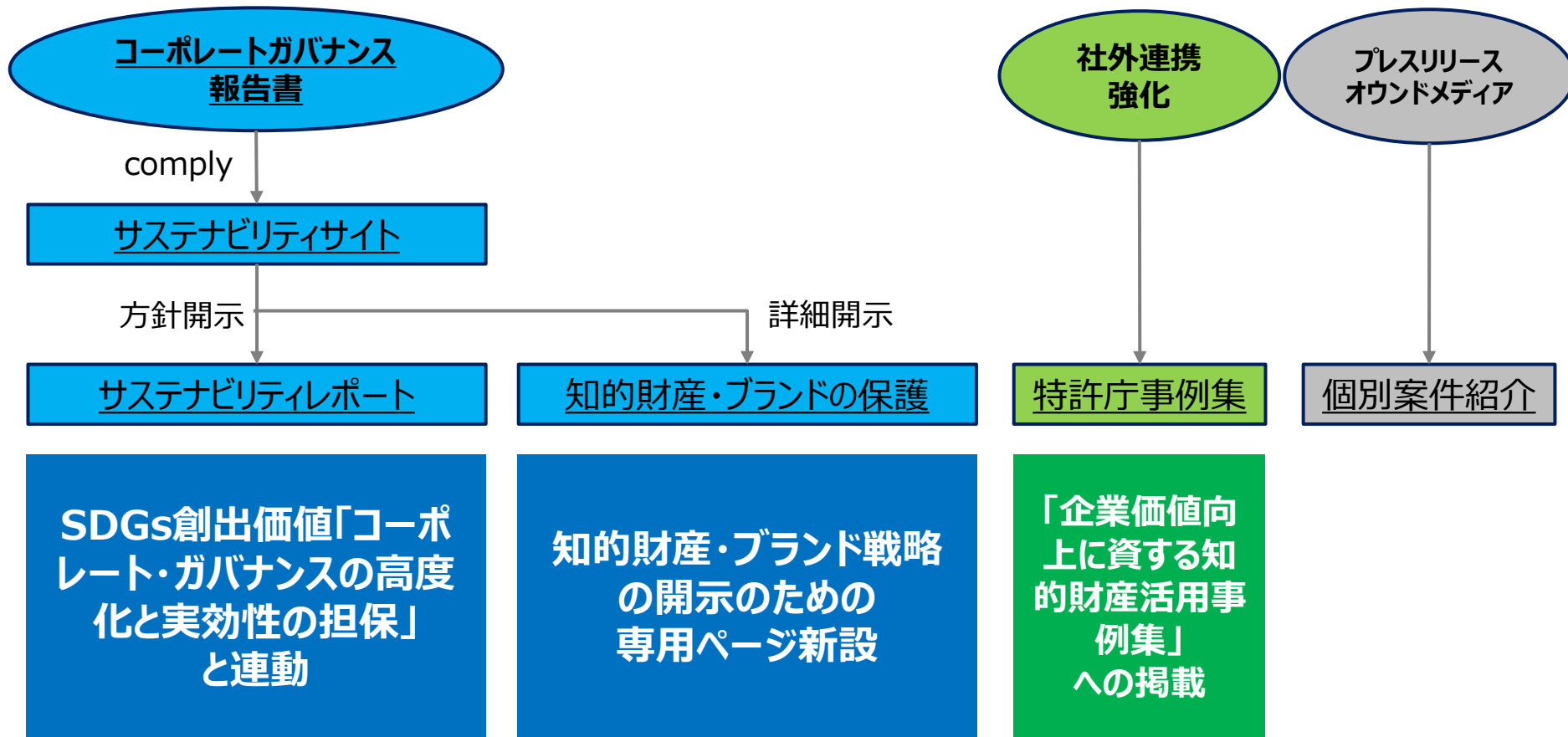
(※1) 経済産業省 Connected Industries

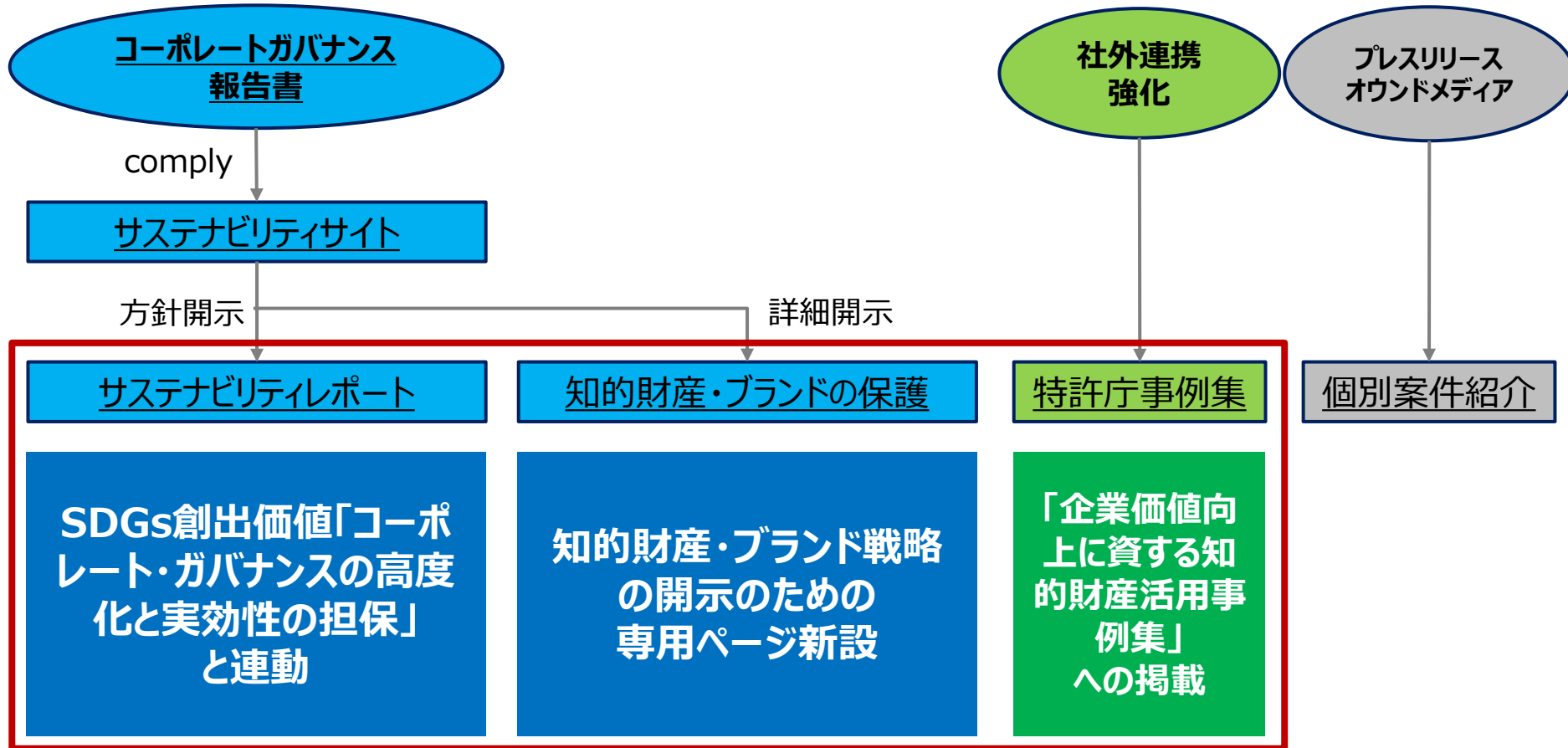
[https://www.meti.go.jp/policy/mono\\_info\\_service/connected\\_industries/index.html](https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/connected_industries/index.html)

(※2) Due Diligence

全体施策

個別施策









## サステナビリティレポートより引用抜粋

[https://www.softbank.jp/corp/set/data/sustainability/pdf/sbkk\\_sust\\_ainability\\_report\\_2022\\_jp.pdf](https://www.softbank.jp/corp/set/data/sustainability/pdf/sbkk_sust_ainability_report_2022_jp.pdf)

トップメニュー
ソフトバンクのサステナビリティ
マテリアリティ 1
マテリアリティ 2
マテリアリティ 3
マテリアリティ 4
マテリアリティ 5
マテリアリティ 6
事業活動を支える取り組み

### レジリエントな経営基盤の発展

SDGs創出価値① コーポレート・ガバナンスの高度化と実効性の担保

#### コンプライアンス

##### 公正競争に対する取り組み

当社は、「ソフトバンク行動規範」に、反競争的行為を行わず、市場での公正な競争を通じて企業活動を行い、取引先と公正で相互発展可能な関係を保つように定め、全従業員に遵守を徹底しています。

また「サプライヤー倫理行動規範」において、取引先に対し、独占禁止法、下請法など公正な取引に関する法令の遵守および、いかなる形態の贈賄行為を行わないことを要請しており、適正な事業遂行を推進していきます。

#### 知的財産

##### 知的財産戦略

当社は、役員・従業員、グループ会社の一人一人が遵守すべきソフトバンク行動規範の中で「知的財産権の重要性を認識し、他者の知的財産権を尊重するとともに、自社の知的財産権の適正な保護および活用を推進」を誓っています。他者の知的財産を尊重しつつ、知的財産の積極的な創造・保護・活用努めることで、企業価値を向上し、ひいては社会全体の産業発展に寄与することを基本方針とし「知的財産戦略」を掲げ推進しています。

知的財産戦略は、事業戦略、技術戦略（研究開発）および営業戦略などの礎となるものであり、継続的に活性化することで当社サービスの競争力を高め、顧客の維持拡大に貢献するとともに、他社他社に対する優位性の確保につながると考えています。また、AIやIoTなどの最先端テクノロジーを最大限に活用したデジタルシフトを自ら実践し、社会やあらゆる産業におけるDX推進の担い手となることが、社会課題の解決に取り組んでいます。

#### レジリエントな経営基盤の発展

SDGs創出価値① コーポレート・ガバナンスの高度化と実効性の担保

#### コンプライアンス

##### 当グループの知財ガバナンス強化および知財人材の育成

国内外の最先端テクノロジーを用いた新しいビジネスモデルの早期実装を目指し、事業会社設立前の知財フェデレーションから設立後の知財関連規程整備、知財人材育成、権利化促進等、知的財産に関する機会拡大を推進しています。併せて知財ガバナンス基準を策定し、企業フェーズに合わせ、対象子会社および対象関連会社に対して定期的にアセスメントを実施するなどグループ一体となったガバナンス体制構築を推進しております。また、グループ企業各社の独立性を担保しつつ知財の財産業務のノウハウを共有することにより、グループ全体としての知的財産戦略の深化・拡充化を目指し「知的財産実務ワークショップ」をソフトバンクグループ株式会社と共に主催しています。

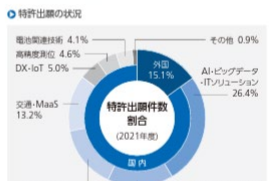
##### マルチブランド戦略の支障とならうるブランド不正使用の排除

当社のブランドを不正使用した他社サービスや模倣品を放置しておくことは、ブランドイメージの悪化や不正資金の流れを招くだけでなく、ブランドに信頼を寄せざるお客様の健康や安全被害につながる恐れもあります。他社によるブランド不正使用の検知、侵害排除および警告未然防止に速やかに対応するため、当社がマルチブランド管

##### 知的財産の保護

当社では、知的財産の保護に当たり、関連法令を遵守するとともに、特許や商標管理に関する社内規程等に基づき、知的財産の積極的保護と活用に取り組んでいます。当社が推進するBeyond Carrier 戦略を進め、通信ネットワーク技術のみならず、AI-IoTを応用した新事業領域においても徹底的に特許出願を行った結果、2021年度の特許出願件数は国内外合わせて219件となりました。

# 「コーポレート・ガバナンスの高度化と実行性の担保」と知財戦略との連動 SDGs創出価値への貢献をストーリー化





## 知的財産・ブランドの保護

▼ 基本的な考え方 ▼ 体制 ▼ 主な取り組み

当社は役員・従業員、グループ会社の一人一人が所有者の知的財産を尊重するとともに、自社の知的財産しつつ、知的財産の積極的な創造・保護・活用に関する基本方針とした「知的財産戦略」を掲げ推進しています。

知的財産戦略は、事業戦略、技術戦略（研究開発）の競争力を高め、顧客の維持拡大に貢献するとIoTなどの最先端テクノロジーを最大限に活用したること、社会課題の解決に取り組んでいます。

## 持続可能な社会づくりへの貢献、課題解決に向けた社会実装

### オフィスのスマート化

働き方改革や新型コロナウイルス感染症対策に伴うテレワークの普及に対応し、オフィスの快適性の向上や多様な働き方を支援するためのソリューションとして、「Smart Work Solution」を提案しています。Smart Work Solutionで展開されるビジネスモデルを実現する要素技術に着目し、自社の競争力や差別化を実現するため特許ポートフォリオの構築を進めています。

また、知的財産の創造および活用においてオープンベーションを含む多様な手法を取り入れています。

### Beyond AI 研究推進機構

国立大学法人東京大学などと世界最高レベルのAI（人工知能）研究機関として「Beyond AI 研究推進機構」を設立し、共同研究を開始しました。本研究推進機構は、最先端のAI研究を行う中長期研究と、研究成果を基に事業化を目指すハイサイクル研究の二つの方向性で研究を行い、事業化益をさらなる研究活動や次世代AI人材育成に充てていく

## マルチブランド戦略の支障となりうるブランド不正使用の排除

当社のブランドを不正使用した他社サービスや模倣品を放置しておくことは、ブランドイメージの悪化や不正資金の流れを招くだけでなく、ブランドに信頼を寄せるお客さまの健康や安全被害につながる恐れもあります。

他社によるブランド不正使用の検知、侵害排除および侵害未然防止に速やかに対応するため、当社がマルチブランド戦略として展開する「ソフトバンク」、「ワイモバイル」、そして「LINEMO」ブランドのライセンスであるグループ企業の各知的財産部門との連携を強化し、グループ一体となったブランド価値向上施策を推進しています。さらに、水際対策（日本税関への輸入差し止めや個別研修対応）に加えて企業団体や官公庁との情報交換を通じて問題解決に向けた社外への情報発信も継続しています。

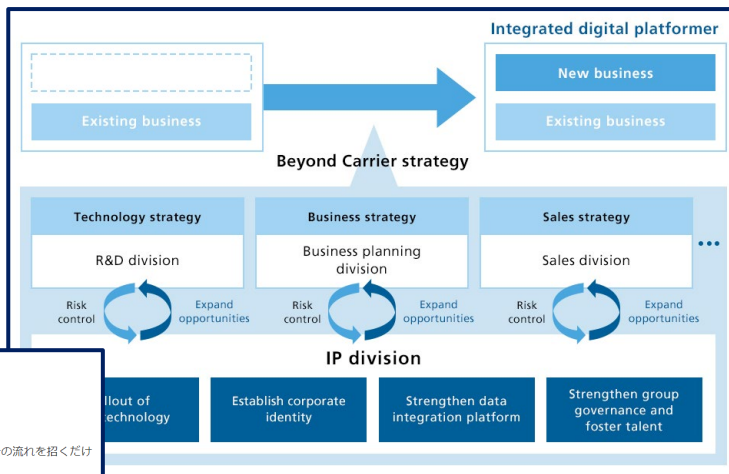
## データ連携基盤の構築推進

不正競争防止法や著作権法の観点から社内におけるデータ管理責任部門やデータ活用部門との連携を強化し、社内外データ適正管理に関する方針を定めデータの戦略的利活用の基盤固めを推進しています。

加えて、警察当局とも連携しながらフィッシングサイトなどの監視や停止措置を継続的に実施することで安心してデータを活用できる社会づくりに貢献します。

日本語版

<https://www.softbank.jp/corp/aboutus/governance/intellectual-property/>



## 英語版リンク

<https://www.softbank.jp/en/corp/aboutus/governance/intellectual-property/>

「知財ガバナンス強化」「持続可能な社会づくりへの貢献」「マルチブランド戦略」等  
各項目に対応する知的財産戦略を掲載し、適宜アップデート



特許庁 企業価値向上に資する知的財産活用事例集より引用抜粋  
[https://www.jpo.go.jp/support/example/chizai\\_senryaku\\_2022.html](https://www.jpo.go.jp/support/example/chizai_senryaku_2022.html)

## 08 ソフトバンク 株式会社

情報通信 日本

### 成長戦略「Beyond Carrier」を加速させ [SDGs]が目指す社会の実現に貢献する

**概要**

ソフトバンク株式会社は、ソフトバンクグループ共通の経営理念である「情報革命で人々を幸せに」という考え方のもと、基幹事業である通信事業を、スマートフォンやブロードバンドの契約数拡大及び新たな通信インフラである5Gの取組を通じてさらに成長させながら、通信以外の領域の拡大を目指している。成長戦略として「Beyond Carrier」[SDGs]が目指す社会の実現に貢献する。日本国内において新規事業の自立立ち上げに注力している。

**1 経営上の課題／中長期的な事業の方向性**

(1) 持続的成長のためのテーマ：  
6つのマテリアリティ (重要課題)

（重要課題）を設定してSDGsに  
対応している。  
マテリアリティは、事業の成長とSDGsの達成を両立させること  
図っていく。[IDX]による社会課題の解決

6つのマテリアリティ (重要課題)

事業を通じた社会課題解決		
<b>DXによる社会・産業の価値</b> SDGs貢献課題 (1) 顧客体験/デジタルトランスフォーメーションによる顧客満足度の向上 (2) DXによる新しい事業の創出 (3) 地域社会の活性化 (防災・防災)	<b>人・物・モノやサービスが流通しやすくなる</b> SDGs貢献課題 (1) スマートデバイス普及を促した持続可能な消費の促進 (2) 新たな顧客・アクセスできる事業の創出 (3) ICT活用による新たなライフスタイルと生活環境の実現化	<b>オープンイノベーションによる新事業の創出</b> SDGs貢献課題 (1) 最先端テクノロジーによる新しいビジネスモデルの創出 (2) 新たな顧客・アクセスできる事業の創出 (3) ICT活用による新たなライフスタイルと生活環境の実現化
企業活動を通じた社会課題解決		
<b>テクノロジーのデカダで地産地消に貢献</b> SDGs貢献課題 (1) デジタルトランスフォーメーションによる顧客体験の向上 (2) 顧客体験の向上 (パーソナライズド)	<b>質の高い社会ネットワークの構築</b> SDGs貢献課題 (1) 持続可能な生活インフラの構築 (2) 持続可能な生活インフラの構築	<b>レジリエントな経営基盤の構築</b> SDGs貢献課題 (1) コーポレート・ガバナンスの構築と実効性の向上

**【従来の方向性】**  
 ● 総合デジタルプラットフォーム  
 ● Beyond Carrier

**【経営層と知財部門とのコミュニケーション】**  
 ● 経営会議を通じた経営層への意識のインフラ  
 ● 知財戦略推進のための経営層を含む全社員に対する積極的な情報発信

**【成長戦略の事例における知財戦略】**

● 基幹ビジネスと新規ビジネスの両輪を支える特許ポートフォリオ  
 ● 幅広い顧客ニーズに応じるマルチブランド戦略  
 ● 社内外データの戦略的な利活用の基礎構築  
 ● グループ企業間での知財活動に関する定期的な情報共有

1. 経営上の課題／中長期的な事業の方向性
2. 成長戦略の事例
3. 成長戦略の事例における知財戦略
4. 経営層者と知財部門とのコミュニケーション
5. 知財戦略のステークホルダーへの開示について (P.78-52)

Beyond Carrier

## マクロ視点での知財・無形資産を活用した経営実践に向けた取り組み 経営層と知財部門との距離を近づけるための契機

## Ⅲ.ソフトバンクの知財戦略とフロンティアテクノロジー活用への取組み

### 1. ソフトバンク知財戦略とコーポレートガバナンスコード対応

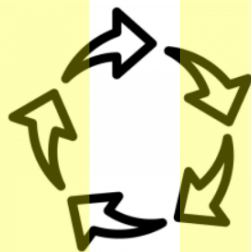
- (1) 事業競争力強化に向けた知財機能の在り方
- (2) まとめ

### 2. xR、メタバース、NFT活用への取組み

- (1) 想定しうる知的財産法観点での課題
- (2) xR・メタバース時代におけるソフトバンク知的財産部門の方向性
- (3) まとめ

## 社外の環境変化

- ✓ 技術革新の加速化
- ✓ 需要ニーズの多様化
- ✓ 競争環境の複雑化



## 社内の環境変化

- ✓ ビジネスの多様化
- ✓ 専門領域の拡大
- ✓ 関連企業の増大

## 社外の環境変化

- ✓ 技術革新の加速化
- ✓ 需要ニーズの多様化
- ✓ 競争環境の複雑化



## 社内の環境変化

- ✓ ビジネスの多様化
- ✓ 専門領域の拡大
- ✓ 関連企業の増大



ミクロ/マクロ  
視点



ゴールから  
の逆算



実績・データに  
基づく客観性

**ミクロ/マクロ視点**  
各領域での専門力深度化  
グループ全体の特性活用

**ゴールからの逆算**  
ユーザエクスペリエンス向上  
のための機会創出

**実績・データに基づく  
客観性**  
レジリエントな組織作り

**外的要因・内的要因に応じて  
知財機能をデザインするスキル**

**群戦略をベースに新たな知財・ブランド価値の創造**

## Ⅲ. ソフトバンクの知財戦略とフロンティアテクノロジー活用への取組み

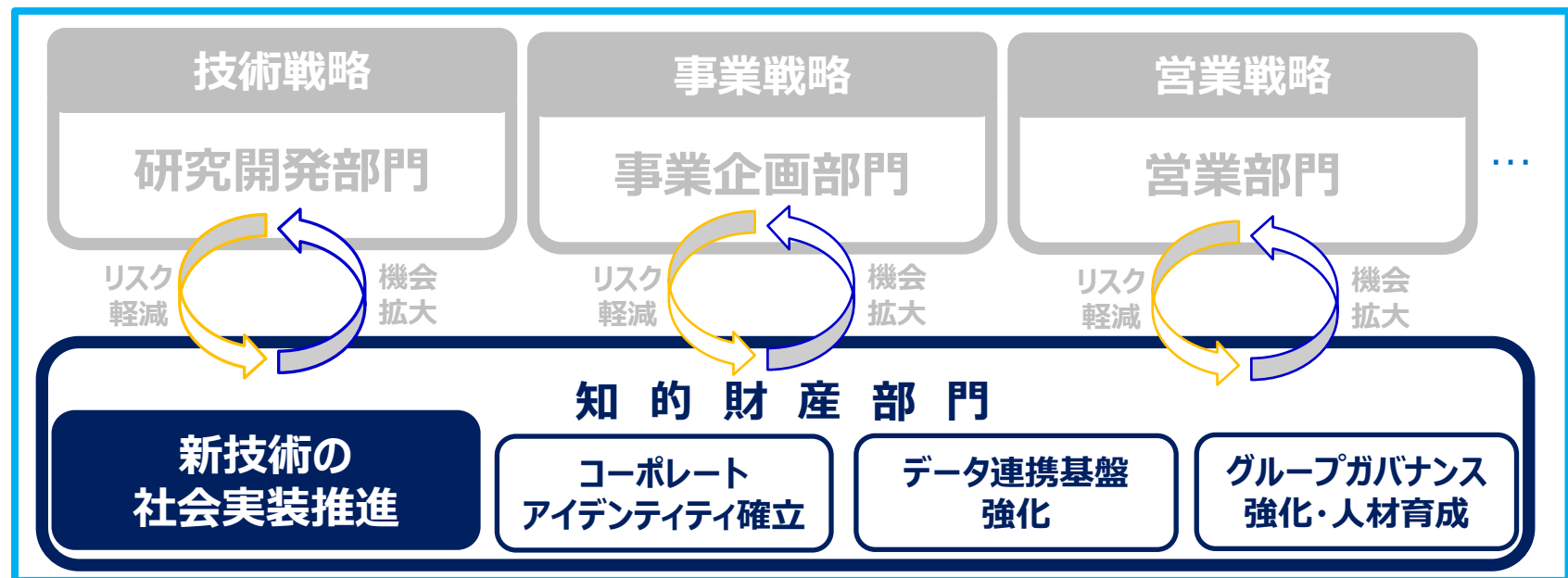
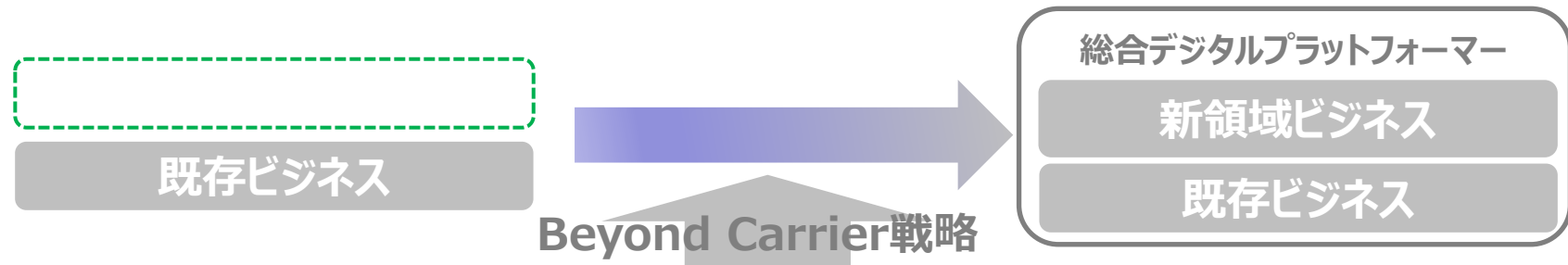
### 1. ソフトバンク知財戦略とコーポレートガバナンスコード対応

- (1) 事業競争力強化に向けた知財機能の在り方
- (2) まとめ

### 2. xR、メタバース、NFT活用への取組み

- (1) 想定しうる知的財産法観点での課題
- (2) xR・メタバース時代におけるソフトバンク知的財産部門の方向性
- (3) まとめ

# ソフトバンクの知的財産戦略（基本方針）





## 知的財産推進計画2022における基本認識



- コロナ後のデジタル・グリーン成長による経済回復戦略を進める中で**企業の知財・無形資産の投資・活用**
- 米国では**企業価値の源泉が無形資産**に変わる中、**日本ではその貢献度が低い**
- **知財・無形資産による差別化**により、**マークアップ率**を引き上げることが、**成長と分配の好循環**のために重要

### グローバルな競争環境の変化

■ 技術をいかに機動的かつスピーディーにグローバルに社会実装させるかの**“イノベーション・スピード競争”**へ  
 ⇒従来のプレイヤーだけでは対応できず、イノベーション創出のプレイヤーの多様化(個人・スタートアップなど)が急務

■ **デジタル空間の技術パラダイムの転換**  
 ⇒Web3.0時代の到来。日本の豊富なコンテンツを活用してデジタル経済圏を拡大する機会  
 ⇒メタバース等のデジタル空間における知財の権利保護の在り方の検討が急務

■ 熾烈な**技術覇権・国際連携競争と経済安全保障**  
 ⇒国際市場獲得・経済安全保障実現に向け、標準戦略が死活的に重要に

■ **新たな知財“データ”のガバナンスへの関心の高まり**  
 ⇒データ利活用のルール形成を巡る主導権争い

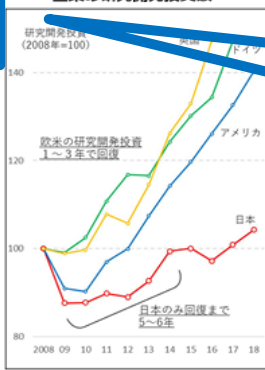
### 日本のイノベーション競争力の後退

**イノベーションのランキングで日本は13位と低い評価**  
 WIPO「グローバルイノベーション指数2021」 ※2007年は4位  
 米国:3位、英国4位、韓国5位、ドイツ10位、フランス11位、中国12位

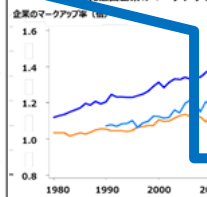
企業の市場価値に占める無形資産価値の割合



企業の研究開発投資額



先進国企業のマークアップ率



## デジタル時代のコンテンツ戦略

- ◆ あらゆる人々の創造性発揮を促し、新たな価値創出を拡大
- ◆ クリエーター等主導によるコンテンツ・エコシステムを活性化
- ◆ メディア・コンテンツ産業の構造転換・競争力強化を促進

### 1. コンテンツの「利用」と「創作」の好循環による価値増殖の加速

- デジタル時代に対応した**著作権制度・関連政策の改革**  
 ・ **簡素で一元的な権利処理の実現**【2023年常会に法案提出】

### 2. Web3.0時代の新たなコンテンツ消費等への対応

- **メタバース上のコンテンツ等をめぐる法的課題**の把握と論点整理。  
**官民一体となったルール整備**
- **NFTの活用**に係る**コンテンツホルダーの権利保護、利用者保護等**

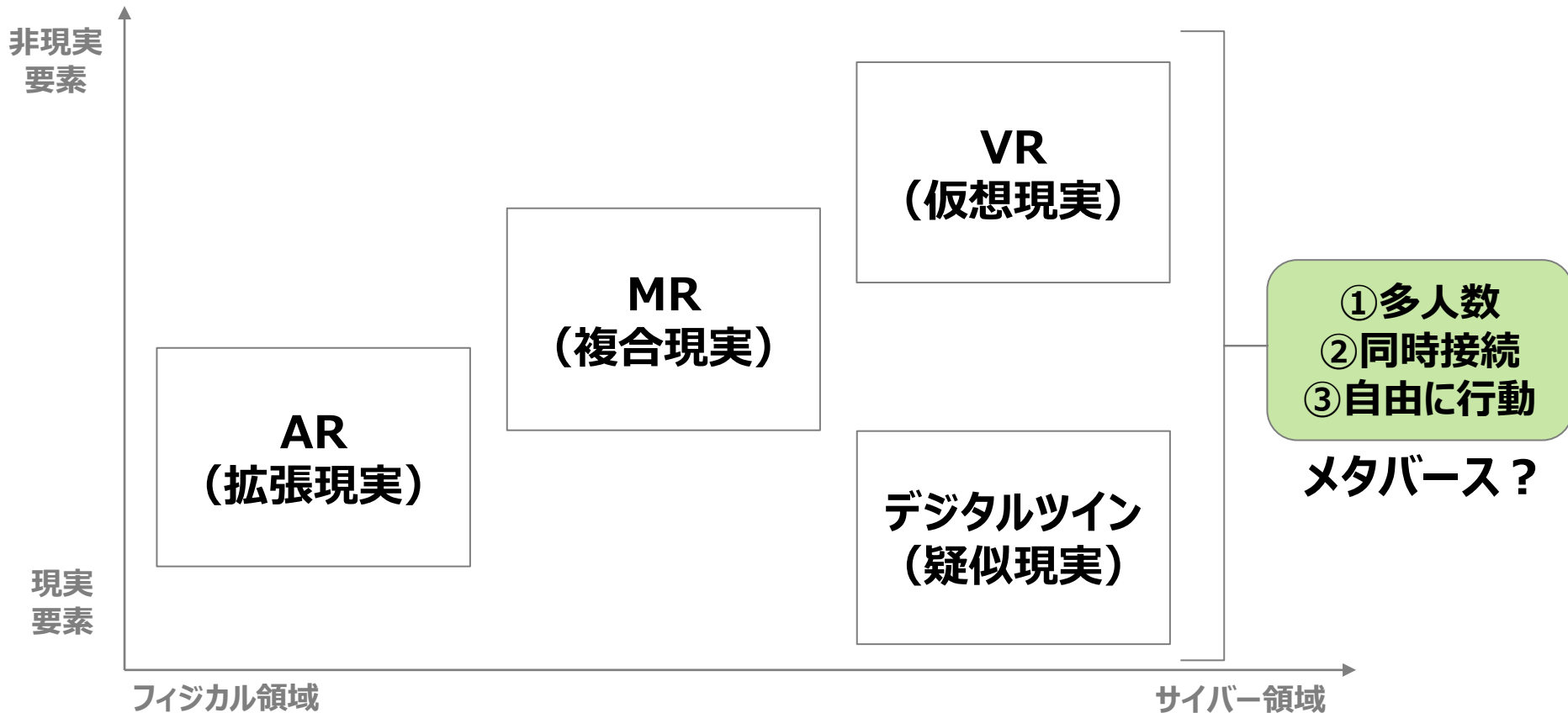
### 3. 海外展開を見据えたビジネスモデルへの転換促進

- 国内向け作品づくりから**「世界で売れる」作品づくり**へ  
 ・ **制作システムの抜本的転換**と国際販売力の強化  
 ・ クリエーター等主導への転換を踏まえた人材育成等

主な日本のメタバース団体	主な会員企業	設立年
<b>一般社団法人 日本メタバース協会</b>	株式会社Ginco、CoinBest株式会社、インテリジェンスユニット合同会社	2021年
<b>一般社団法人 Metaverse Japan</b>	一般社団法人渋谷未来デザイン、PwC コンサルティング合同会社 パナソニック コネクト株式会社、デジタルハリウッド大学、KDDI株式会社、東京 大学生産技術研究所、SOMPOホールディングス株式会社、慶應義塾大学、 ブロックチェーンコンサルタント	2022年
<b>一般社団法人 メタバース推進協議会</b>	東京大学、大阪観光局、株式会社TKコーポレーション、株式会社バンカーズ・ ホールディング	2022年
<b>一般社団法人 日本デジタル空間経済連盟</b>	SBIホールディングス株式会社、株式会社野村総合研究所、株式会社ミンカ ブ・ジ・インフォノイド、株式会社電通グループ、野村ホールディングス株式会社、 アンダーソン・毛利・友常法律事務所	2022年
<b>一般社団法人 Japan Contents Blockchain Initiative</b>	株式会社博報堂、株式会社朝日新聞社、株式会社C-POT、株式会社エイト リンクス、株式会社 ケンタウロスワークス、原本株式会社、ユナイテッド株式会 社	2021年

※2022年9月時点の情報を基に作成

# xRとメタバースの関係性（仮イメージ）



## 【技術的要因】

- ・ネットワーク・クラウド・AIの高度化
- ・VRデバイスの進化
- ・DAO（分散型自律組織）の発展
- ・ブロックチェーン・NFT・決済機能・・・

## 【コンテンツ的要因】

- ・コンテンツの多様化（UGC、xRコンテンツ）
- ・コンテンツ提供形態の多様化（ストリーミング、サブスク、2次流通の可能性）
- ・デジタルコンテンツへの投資・・・

## 【社会的要因】

- ・デジタルネイティブの増加
- ・消費感覚の変化、無体物と有体物の相対的価値観の変化
- ・コロナ禍、DX化、働き方の変化・・・

	視点	関連法
1	知的財産法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意匠法、商標法、著作権法、不正競争防止法 （・肖像権、パブリシティ権、アイデンティティ権） 等</li> </ul>
2	上記以外	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロバイダー責任制限法</li> <li>・個人情報保護法、発信者情報開示請求</li> <li>・刑法（賭博罪、詐欺罪、名誉棄損罪、侮辱罪）、なりすまし、ディープフェイク</li> <li>・景品表示法、独占禁止法、風営法、労働法</li> <li>・金融規制法、会計・税務</li> <li>・準拠法、国際裁判管轄 等</li> </ul>

- ①バーチャルタッチポイントの構築（VR）
- ②バーチャルPayPayドーム（VR+AR）
- ③コンテンツの新たな価値創出（NFT）

# ①バーチャルタッチポイントの構築（VR）

## アジア最大規模のメタバースプラットフォーム「ZEPETO」にソフトバンクショップがオープン

～日本初、アバターが接客する携帯キャリアショップがメタバースにオープン～



2022年6月23日  
ソフトバンク株式会社

ソーシャル×メタバース  
店頭送客のコミュニケーションツール  
として活用

ソフトバンクプレスリリースより引用抜粋  
[https://www.softbank.jp/corp/news/press/sbkk/2022/20220623\\_02/](https://www.softbank.jp/corp/news/press/sbkk/2022/20220623_02/)

## メタバースモールアプリ「メタパ®」にソフトバンクショップがオープン

～AR表示された実物大のスマホをさまざまな角度から確認して購入可能！～



2022年7月1日  
ソフトバンク株式会社

バーチャルショッピングモール  
バーチャル接客からオンラインショップ  
販売へ誘導

ソフトバンクプレスリリースより引用抜粋  
[https://www.softbank.jp/corp/news/press/sbkk/2022/20220701\\_02/](https://www.softbank.jp/corp/news/press/sbkk/2022/20220701_02/)

# ソフトバンクと福岡ソフトバンクホークスが協業して PayPayドームをメタバース化

ソフトバンク株式会社（以下「ソフトバンク」）と福岡ソフトバンクホークス株式会社は、福岡PayPayドーム（以下「PayPayドーム」）のメタバース化で協業し、2022年5月27日から次の二つの取り組みを実施します。



### バーチャルPayPayドーム インタラクティブなユーザ体験提供



© Fukuoka SoftBank HAWKS

### ARを活用した新たな体験提供 広告導線の創出

ソフトバンクプレスリリースより引用抜粋  
[https://www.softbank.jp/corp/news/press/sbkk/2022/20220525\\_03/](https://www.softbank.jp/corp/news/press/sbkk/2022/20220525_03/)



# バスケットLIVE アプリの応援機能に 「バスケットLIVE NFT」が登場！

LINE NFTで二次流通開始！

「B.LEAGUE 2021-22 POSTSEASON」では、試合のLIVE中にアプリの応援機能を利用して、応援するクラブの今シーズンのハイライト動画をNFT化したアイテム「バスケットLIVE NFT」を購入することができます。

バスケットLIVE NFTサイトより引用抜粋

<https://basketball.mb.softbank.jp/service/nft/>

- ・応援機能を利用 → **応援実感**
- ・売上が一部クラブへ還元 → **一体感**
- ・コレクション保有 → **自慢・承認**
- ・二次流通可能 → **価値の維持向上**

	視点	xR、疑似現実等に関する一般的な課題認識の一例	参考関連法
1	利用者	①アバターに由来する個人情報管理 （利用時間・場所・購入履歴・会話履歴等のトラッキングデータ） ②アバターに由来する個人情報の他のプラットフォームへの転用 ③HMDデバイス等から取得され得る生体情報管理 ④肖像権・パブリシティ権・アイデンティティ侵害、誹謗中傷、ハラスメント等からの救済措置	・個人情報保護法 ・肖像権、パブリシティ権、アイデンティティ権
2	コンテンツ権利者	①現実空間からデジタル空間に持ち込まれた知的財産権の取り扱い ②デジタル空間内で創作された知的財産権の取り扱い（デジタル空間内及び現実空間へ持ち出した場合の取り扱い） ③コンテンツ重合わせ（AR等）・コンテンツ改変による著作権者人格権侵害の可能性	・著作権 ・商標権 ・意匠権 ・不正競争防止法
3	サービス提供者 プラットフォーム	①上記行為に対するサービス提供者の責任範囲 ②利用可能なデジタルコンテンツの範囲（権利制限規定の適用範囲） ③デジタル空間上でのシミュレーションに利用する現実空間上のデータ取り扱い ④デジタル空間上で得られたシミュレーションデータ取り扱い	上記に加え、プロバイダー責任制限法 ・データ利用権

	視点	NFTサービスに関する一般的な課題認識の一例	参考関連法
1	利用者	①NFTコンテンツに関する知識不足（所有権？複製不可？翻案不可？等） ②不正コンテンツ購入時の救済措置 ③データ（財産）管理のプラットフォーム依存	・著作権 ・不正競争防止法
2	コンテンツ権利者	①適正な対価還元の仕組みづくり ②コンテンツの不適切使用への対応	・著作権 ・不正競争防止法
3	サービス提供者 プラットフォームマー	①上記行為に対するサービス提供者の責任範囲 ②NFTトークンとコンテンツデータとの管理差異（分散管理と非分散管理） ③二次流通・オープンメタバースに向けた相互連携への取り組み	・著作権 ・不正競争防止法 ・プロバイダー責任制限法

## Ⅲ.ソフトバンクの知財戦略とフロンティアテクノロジー活用への取組み

### 1. ソフトバンク知財戦略とコーポレートガバナンスコード対応

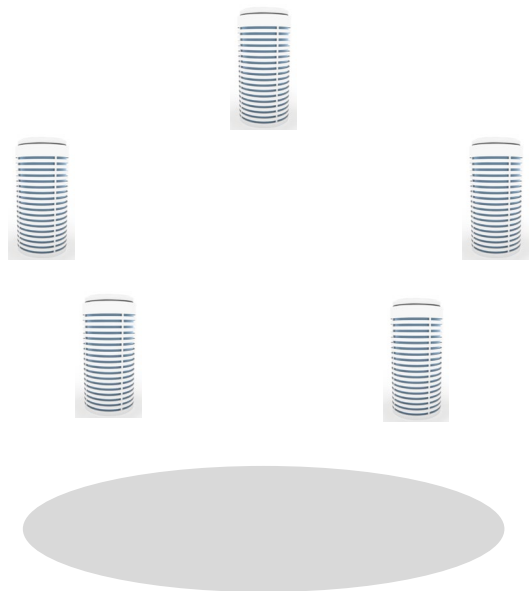
- (1) 事業競争力強化に向けた知財機能の在り方
- (2) まとめ

### 2. xR、メタバース、NFT活用への取組み

- (1) 想定しうる知的財産法観点での課題
- (2) xR・メタバース時代におけるソフトバンク知的財産部門の方向性
- (3) まとめ

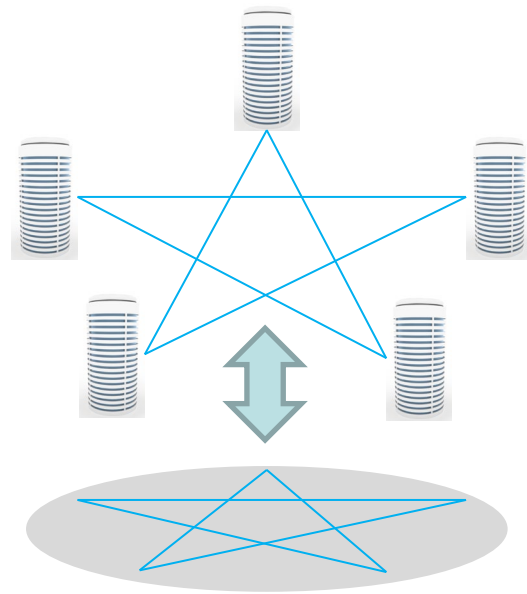
## 現在：クローズドメタバース

現実世界との限定的な連動  
補助的・付従的な役割



## 今後：オープンメタバース

現実世界との相互フィードバック  
独自のエコシステム形成



## 現在：クローズドメタバース

現実世界との限定的な連動  
補助的・付従的な役割

デバイス選択の制限

コンテンツの制限

PF間データ量が小

利用者・サービス提供者の  
固定・一極化

無形資産価値の  
**集中・固定化**



## 今後：オープンメタバース

現実世界との相互フィードバック  
独自のエコシステム形成

デバイス選択の拡大

コンテンツの充実

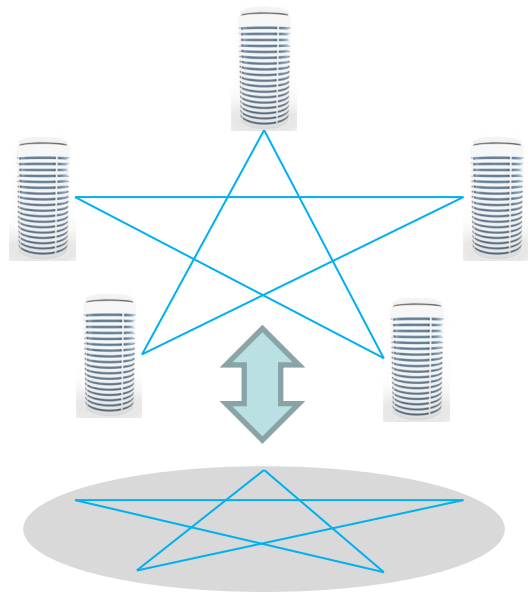
PF間データ量大

利用者・サービス提供者の  
増加・多極化

無形資産価値の  
**質的・量的拡大**

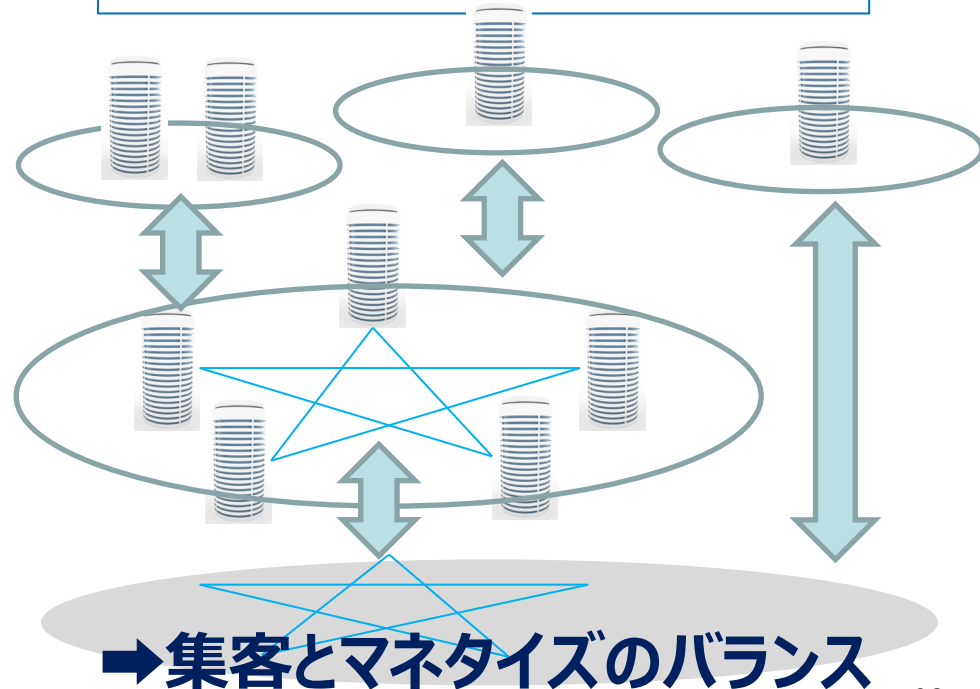
## 今後：オープンメタバース

現実世界との相互フィードバック  
独自のエコシステム形成



## 厳密には：メタバースの階層化

パブリック・プライベートメタバース  
の質的量的な共存



集客とマネタイズのバランス



	項目	主な用途	顧客側の価値	ソフトバンクの価値
1	xR	コミュニケーション	<b>デジタル空間での価値拡大</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・インタラクティブ体験</li><li>・フィジカルデバイド解消</li><li>・移動コスト削減</li><li>・価値共有・コレクション機能</li><li>・決済機能の充実</li></ul>	<b>新たなビジネス市場の形成</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・販売網・広告導線の構築</li><li>・サービス連携・相乗効果</li><li>・購入と体験のパッケージ</li></ul>
2	<b>疑似現実</b> (特にデジタルツイン)	シミュレーション	<b>デジタル空間から現実空間への価値フィードバック</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・社会実装の加速（限界費用無しでの実装検証可能性）</li><li>・現実・デジタル空間上のデータ利活用促進</li><li>・技術、文化の継承・保存・公開</li></ul>	

フィジカル領域に加え、パブリック・プライベートメタバースの組み合わせによる  
**サイバー領域上の知財価値オープン・クローズ戦略の必要性**



## 知的財産戦略の立案

縦（経営層）・横（関連部署）との連携

ルールメイキングへ向けた意見発信

DX推進・業務効率化、人材育成施策など

出願  
権利  
維持

知財  
契約  
対応

FTO  
調査

不正  
行為  
監視

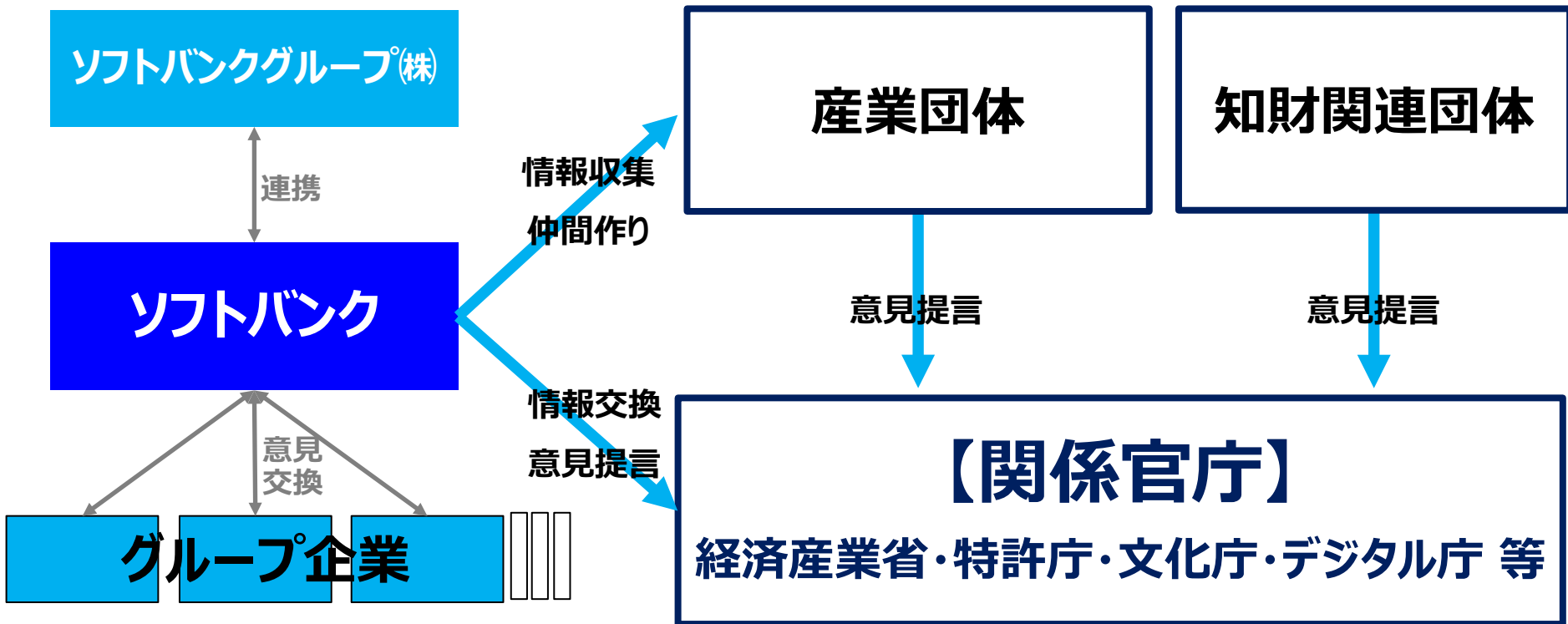
社内  
啓発  
活動

子会  
社  
支援

侵害  
紛争  
対応

水際  
対策

	視点	課題	関連法
1	知的財産ミックスによる保護	<p>ソフトバンクショップinZEPETOサイトより引用抜粋  <a href="https://www.softbank.jp/mobile/special/virtual-shop/">https://www.softbank.jp/mobile/special/virtual-shop/</a></p>  <p><b>デジタルキャラクターグッズ</b></p> <p>デジタル空間デザイン</p>  <p><b>NFT機能操作画面デザイン</b></p> <p>バスケットLIVE NFTサイトより引用抜粋  <a href="https://basketball.mb.softbank.jp/service/nft/">https://basketball.mb.softbank.jp/service/nft/</a></p> <p>SBKKプレスリリースより引用抜粋  <a href="https://www.softbank.jp/corp/news/press/sbkk/2022/20220701_02/">https://www.softbank.jp/corp/news/press/sbkk/2022/20220701_02/</a></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・著作権</li> <li>・商標権</li> <li>・意匠権</li> <li>・不正競争防止法</li> </ul>
2	契約他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メタバースシステム開発契約の見直し</li> <li>・プラットフォーム利用規約とサービス利用規約の整合性検討</li> <li>・権利制限規定（著30の2条、47条等）の限界事例検討 等</li> </ul>	上記の他、データ利用権
3	社内啓発	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「著作権法観点」、「データ取扱い観点」からの契約勉強会の主催</li> <li>・e-learning、コラム等での知的財産情報の発信 等</li> </ul>	・知財法全般



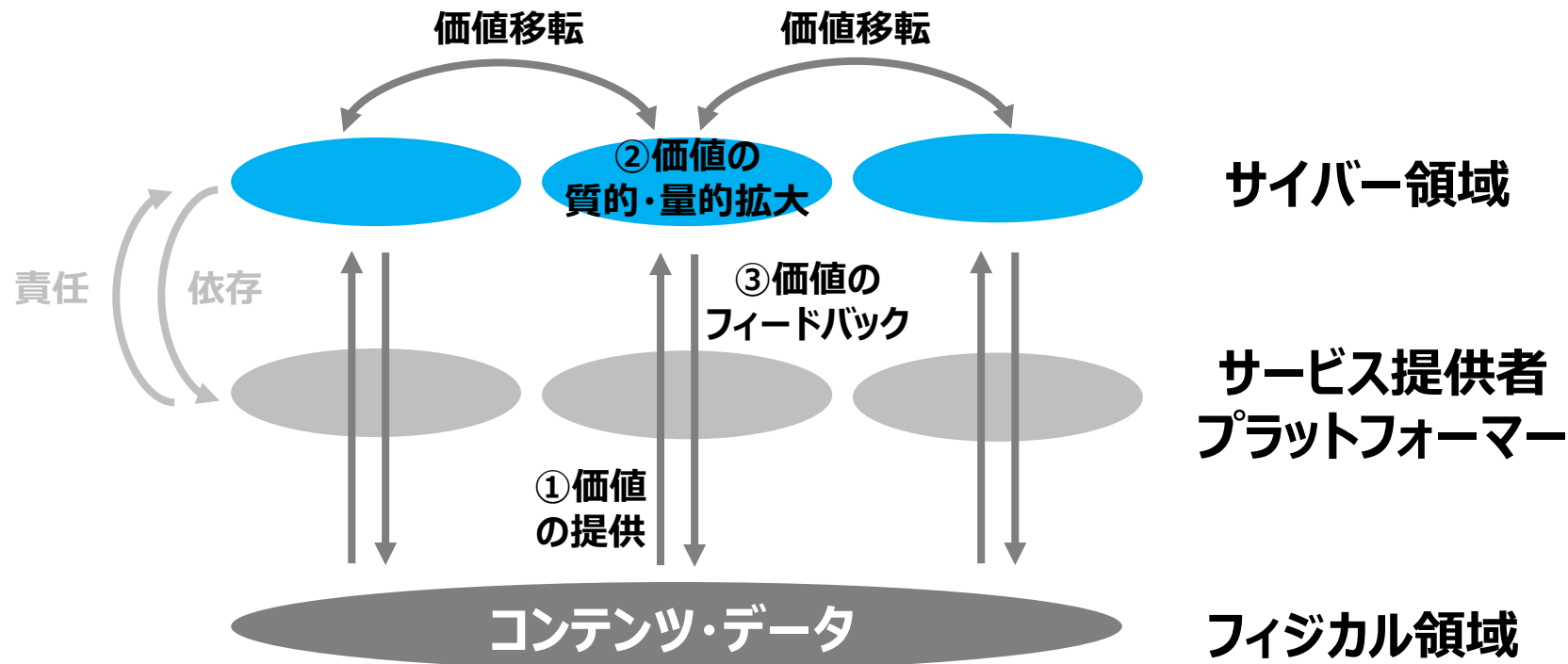
## Ⅲ. ソフトバンクの知財戦略とフロンティアテクノロジー活用への取り組み

### 1. ソフトバンク知財戦略とコーポレートガバナンスコード対応

- (1) 事業競争力強化に向けた知財機能の在り方
- (2) まとめ

### 2. xR、メタバース、NFT活用への取り組み

- (1) 想定しうる知的財産法観点での課題
- (2) xR・メタバース時代におけるソフトバンク知的財産部門の方向性
- (3) まとめ



価値循環の円滑化・適正化に向けて、知的財産権の重要性拡大

- ◆ ユーザ、コンテンツ権利者、サービス提供者（プラットフォーム）が安心してサービスを利用し、発展させることができる持続可能な環境作り
- ◆ 経済安全保障を踏まえたデータ等の取扱いを含む、グローバルで非中央集権型社会の実現に向けたルールメイキング推進

	視点	方向性
1	ソフトロー 思考アプローチ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・価値の設定（何に対してお金を払っているのか、対価を得るのか）</li> <li>・基準の設定（一定程度の定義明確化、予測可能性の見える化）</li> <li>・中間的横断的なルール形成（共有認識の醸成、私的自治の原則尊重）</li> </ul>
2	ハードロー 思考アプローチ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・権利保護及び権利制限のバランス考慮（既存の知的財産権尊重、イノベーションの促進、デジタル・アナログのイコールフットイング等）</li> </ul>

一過性・局地的トレンドに終わらせない「目線合わせ」と「戦略知財」の必要性

ご清聴頂きありがとうございました。

佐保 優一 ([yuichi.saho@g.softbank.co.jp](mailto:yuichi.saho@g.softbank.co.jp))

ソフトバンク株式会社 コーポレート統括 法務・リスク管理本部 知的財産部  
一般社団法人日本知的財産協会 著作権委員会 委員長  
特定侵害訴訟代理業務付記 弁理士